

会津若松市

若松の町は、城を中心に武家屋敷、外堀、町人町が囲み、最も外側を寺が取り囲んでいた

幕名時代「黒川」と呼ばれた若松。湯川の底が鉄分で黒かったことから「黒川」、東山羽黒神社の前を流れていたことから「羽黒川」に由来する地名。「若松」とは滋賀県日野の若松の森に由来

阿弥陀寺には1281体が埋葬されてる

諏方神社は、本社に遠慮し、「訪」の字に「言」を付けない。

会津新選組は130余名、斎藤一墓は阿弥陀寺、近藤勇墓は天寧寺にあり

街の筋違いの道は、東から西へ雨水を緩やかに流すためのもので、そのため南北は直線

大龍寺は、元桂山寺といい、米代で死去した信濃国守護大名小笠原長時の菩提寺

豊臣秀吉は1590年8月9日から5日間奥羽仕置きで興徳寺にいた

湯川は、古い時代が蚕養神社前の「分川」、その次が外堀の「車川」、そして現在の「湯川」へ変化した

城の外堀には、16の廓門があった

会津藩の女性は233名自刃または戦死

